

競技審判上の注意

- 1 本大会は、公益財団法人日本バドミントン協会令和6年度競技規則、同大会運営規程及び同公認審判員規程により行います。
- 2 審判は、全て大会本部にて行います。(各コート2巡目から得点係は前の試合の敗者となります。)
- 3 タイムテーブルの1巡目のみ開始時間が決まっています。試合開始時間に注意してください。尚、2巡目以降は空いたコートに入る流し込み方式(試合番号順に空いたコートに入る)で行います。
- 4 競技の進行を円滑に進めるため、「選手招集」等の放送に十分注意してください。
- 5 試合が連続する場合は、原則として、試合終了後10分以上間隔をあけて次の試合を開始します。競技役員の手指示に従い、選手は選手招集所にすみやかに集合してください。
- 6 コーチ席2席を設けます。ベンチ・コーチ席に入ることができるのは登録したコーチのみです。
- 7 コートへの入場は、主審の先導によりトーナメント表の上側のチーム(選手)から入場します。退場は、主審の先導により勝利チーム(選手)から退場します。
- 8 各試合(マッチ)のインターバルは次のとおりです。
 - ①各ゲームにおいて一方のサイドが11点になったとき、60秒を超えないインターバルを認めます。選手は20秒前にはコートに入ってください。
 - ②第1ゲームと第2ゲームの間、第2ゲームと第3ゲームの間に120秒を超えないインターバルを認めます。選手は20秒前にはコートに入ってください。
- 9 インターバル中でのアドバイスは、同時に2人までコートに入ってもよいが、主審が「20秒」とコールしたら、コーチはすみやかにコートから離れてください。
- 10 試合(マッチ)中の水分補給、汗拭き、ラケットの交換、靴ひもの締め直し等、プレーを中断する場合は、必ず主審の許可を得てください。尚、氷嚢の使用は、インターバル中のみ認めます。
 - ①試合時に必要なドリンク容器は、倒れてもこぼれない蓋付きボトルを使用して各自バッグに収納し、主審横に置いてください。
 - ②氷嚢は、ベンチまたはコーチ席で小型の保冷バッグ(ソフトバック)等に入れ、保管してください。
- 11 主審が必要と認めた以外のプレーの中断は、一切認めません。
- 12 シャトルは試打してありますので、選択は認めません。また、シャトルの交換については主審が決定しますので、指示に従ってください。
- 13 試合中のけがや病気に対しては、主審が判断します。主審が必要に応じて競技役員長(レフェリー)を呼んだ時は、競技役員長(レフェリー)の判断に従ってください。
- 14 審判の判定に「抗議」や「異議」を唱えることは一切認めません。もし判定に対して疑問のある場合には、次のサービスが行われる前に「質問」をすることができます。ここで質問のできる者とは、当該選手及びコーチに限ります。

試合(マッチ)中、インプレーでない時のアドバイスはコーチ席に座って行い、試合(マッチ)中はコートのそばに立ってはいけません。また、コーチが他のコートに移動したいときは、必ずインプレーでないときに行ってください。
- 15 競技フロア内での携帯電話等の使用は、一切認めません。携帯電話等は電源を切るか、マナーモードにしてください。
- 16 試合中にモバイル機器(iPad・携帯電話等)を使用したアドバイス・コーチングは禁止します。
- 17 試合中の服装は、(公財)日本バドミントン協会審査合格品とし、試合時必ず上着の背面中央にゼッケンを付けてください。上着の背面の中央に、都道府県名及び個人名(フルネーム)を明記してください。所属チーム名は記載されていても構いませんが、着衣上の表示については、大会運営規定24条を適用します。また、ユニフォームの広告(ロゴ)については、令和3年12月26日付の日小連公文書のとおりとします。
- 18 コーチ席での服装等は、公認審判員規程第5条第12項により「チームユニフォーム、シャツ、ポロシャツ、ブラウス、長ズボンまたはスカートとし、ジーンズやビーチサンダル、バミュダ、ショーツ、スリッパ、サンダルは禁止とする。」とします。ただし、ハーフパンツは審査合格品であっても禁止とします。

競技フロア内では必ず体育館シューズを履いてください。
- 19 その他は、代表者会議における打合せ事項のとおりとします。
- 20 コート入場後のウォームアップは、主審の手指示により各試合(マッチ)毎に2分間行います。ウォームアップは主審の手指示で始まり、マッチ開始時の「(ラブオール)プレー」のコールで終わるものとします。

シングルスの場合は、対戦相手と行ってください。ダブルスはパートナーと行ってください。この際の手指示は各自で準備してください。